

古代における建築工事の工程と儀式

濱島正士

Process and Rituals in the Architectural Construction in Ancient Japan

- ① 寺院の造営
 - ② 平安宮の造営
 - ③ 工匠の儀式
 - ④ 工期と工程
- むすびにかえて

【論文要旨】

日本の建築は木造で軸組構造とするのが特徴で、山から木を伐り出して製材し、所定の部材に加工し（木作り）、同時に基壇を築いて礎石を据え、柱を立て梁・桁を組んで棟を上げ、屋根を葺き、造作を取り付け、壁を塗り色を塗り金具を付けるなどして完成する。

古代においては、こうした建築工事がどのような工程で進められ、完成までどの位の工期が掛かったのか。工事中には、工事の進捗に合わせてどんな建築儀式が行われたのか。なかでも、工匠の儀式である木作始め、柱立て、棟上げはどのような内容であったのか。それらは中世以降と違ったのか、同じだったのか。

以上のような建築生産に係わる問題について、文献史料にもとづき寺院や宮殿の場合を考察する。